



# 第74回岩手大学 COEフォーラム

岩手大学21世紀COEプログラム「熱-生命システム相関学拠点創成」では、関連分野において国内外で活発に研究をされている方をお招きしてフォーラム（セミナー）を開催しています。今回は、帯広畜産大学の嘉糠洋陸先生をお招きし、病原体媒介蚊における感染症伝播システムに関する最新の成果についてご講演いただきます。

お忙しいこととは思いますが、万障繰り合わせの上、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

第74回担当・農学部附属寒冷バイオフィロンティア研究センター  
稲葉 丈人 (tinaba@iwate-u.ac.jp)

\*\*\*\*\*

日時：2008年10月10日（金）16:45～18:30

場所：岩手大学農学部2番講義室

## 嘉糠 洋陸 氏

帯広畜産大学 原虫病研究センター・教授

Global-COE プログラム「アニマル・グローバル・ヘルス」開拓拠点  
拠点リーダー

### 病原体媒介蚊における感染症伝播システム

マラリアという病気は、蚊によって伝わることは誰でも知っている。それは時によって“吸血時の物理的な接触によって病原体がうつる”と誤解されていることが多い。しかし実際には、マラリア原虫などの病原体はそれを運ぶ節足動物の体内における固有のライフサイクルを持っており、その体内での増殖・分化の過程を経て、次の宿主へと媒介される。興味深いことに、節足動物自身は病気になることはなく、“病原体を運搬するカーゴ”としてのみ機能している。蚊によって媒介される感染症には、マラリアの他に西ナイル熱・日本脳炎・フィラリアなどがあり、依然として世界的に大きな問題となっている。その傍ら、この節足動物を介した病原体のライフサイクルは、遙か昔から保存されてきたものであり、その媒体である蚊も多様な生命現象の宝庫である。そこに潜む秘密を探ることの楽しさについて、聴衆の方々とその場で共有することを試みる。さらに、フィールドでの活動を主旨とする本学グローバルCOEプログラムの概要について、自身の病原体媒介蚊の研究と絡めながら説明を加えたい。

参考文献

Cell (2006) 126: 583-96; EMBO J. (2005) 24: 3793-806; PNAS (2003) 100: 11723-8; Neuron (2002) 35: 855-64; Nature Cell Biol. (2002) 4: 705-10; J. Biol. Chem. (2002) 277: 28372-5; EMBO J. (2002) 21: 3009-18; PNAS (2000) 97: 662-7; Mol. Cell (1999) 4: 757-69; PNAS (1999) 96: 145-50 など